

# 小型底びき網の資源管理に関する研究

(資源管理型漁業推進総合対策事業)

道根淳・若林英人

## 1. 研究目的

小型底曳網1種漁業は、地域の主要産業として重要であるが、資源状態の悪化、それに伴う水揚げの減少および2極化、高船齢化等が問題となっている。そのため、資源管理および経営改善のための総合的な対策を行う。

今年度は平成12年度に開発した小型軽量漁具の使用を前提としたモデル船の設計に着手した。結果の詳細は、「平成13年度複合的資源管理型漁業促進対策事業報告書」に報告した。

## 2. 研究方法

モデル船設計にあたり、小底漁業者を対象としたアンケート調査を実施するとともに、モデル船設計に参加を希望する経営体を対象とした聞き取り調査および漁業者検討会を実施した。また、青森県の小型底曳網を視察しモデル船設計の参考とした。なお、モデル船の設計はニチモウ株式会社境港営業所に委託した。

## 3. 研究結果

### (1) 小型底曳網1種アンケート調査

小底63経営体を対象に実施(40経営体から回答)

- ・ 今後3ヶ年の代船建造予定は、5経営体が新船建造、1経営体が中古船購入を計画している。
- ・ 軽量漁具の効果については、燃費・船速の向上、漁具費削減、作業性向上等を期待している。
- ・ 代船建造では、操業のし易さや安全性、船価、船速を重要視している。
- ・ モデル船の設計検討について、6経営体から参加希望があった。その他の経営体は、検討には参加しないが、モデル船の内容は知りたいという回答であった。
- ・ モデル船が設計された場合には、「設計内容が良ければ建造を考えたい」が5経営体、「他の船が作ったのを見てから検討したい」が10経営体であった。

### (2) モデル船聞き取り調査

アンケート等でモデル船設計に参加希望のあった9経営体(大田4、和江3、仁摩2)を対象に実施。

- ・ 航海計器類について、現在搭載している機器と必須機器を整理した。
- ・ モデル船に対して、「操業の安全性」「作業スペースの確保」「海水冷却装置の設置」の要望があった。
- ・ 船型については、作業面から艀揚げオモテブリッジが提案された。

### (3) モデル船設計漁業者検討会

小底協議会長、小底漁業者(上記9経営体の内6経営体)、ニチモウ、県漁連、振興課、浜田水産事務所、水産試験場でモデル船の基本設計について協議。

- ・ モデル船の船型は省人、省力化を図ることを考慮し艀揚げオモテブリッジ(スリップウェイ方式)とする。海水冷却装置、補機関、直巻きリール(小型軽量漁具仕様で設計)を配置した図面を作成した。

### (4) 今後の展開

モデル船建造後には漁獲実態および操業実態についてモニタリング調査等の実施が必要と思われる。